

海 浜 青 年 の 家

第1節 概 要

福島県海浜青年の家は、めぐまれた自然環境の中で、青少年たちの集団宿泊研修活動をとおして、規律、協同、友愛、奉仕の精神を体験的に会得させ、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とし、昭和50年4月に開設された県の社会教育施設である。

当所をめざす教育目標は次のとおりである。

- 規則を守り、規律ある態度を養う。
- 相互連帯意識を高め、協同の精神を養う。
- 人格を尊重し合い、友愛の精神を養う。
- 勤労と責任を重んじ、進んで奉仕する態度を養う。
- 心身をきたえ、自己を高めようとする態度を養う。

1 役員及び職員組織

(1) 理事・監事

役 職	氏 名	所 属
理 事 長	佐藤 昌志	福島県教育委員会教育長
副 理 事 長	酒井 信人	福島県海浜青年の家所長
常 務 理 事	丹治 成男	福島県海浜青年の家次長
理 事	奥山 健一	福島県総務部長
〃	早川 俊一	福島県教育庁教育次長
〃	今野 繁	相馬市長
〃	鈴木 完一	福島県社会教育委員の会議議長
〃	太田 緑子	福島県青少年教育振興会長
〃	金田 浩一	福島県教育庁社会教育課長
監 事	高橋 国雄	福島県総務部財政課長
監 事	佐藤 吉一	福島県教育庁財務課長

(2) 運営委員

氏 名	所 属
◎阿部 智 義	相馬市教育委員会教育長
○井上 龍	福島県公民館連絡協議会監事
田中 淳 一	福島県青少年婦人課長
片岡 義 和	福島県教育庁社会教育課主幹
福羽 天 伯	福島県立原町高等学校長
玉川 晃	原町市立原町第二中学校長
太田 豊 秋	福島県青少年団体連絡協議会顧問
八巻 正 隆	相馬青年会議所理事長
松本 一 枝	相馬市青年協議会会計副部長
酒井 啓 雄	海浜青年の家友の会会長

◎印 委員長 ○印 副委員長

(3) 職員組織

職 員	所 長	次 庶 務 長 兼 課 長	指 導 課 長	主 事	指 導 主 事	保 健 技 師	運 兼 用 務 手 員	計
数	1	1	1	1	4	1	1	10

2 昭和62年度重点目標と成果

(1) 研修内容の充実

- ① 青少年団体の研修の充実と利用促進
 - 社会教育団体の研修のねらいが、個別化かつ多様化しているので、弾力的に研修計画を受け入れ、適切な指導を行うとともに、条件整備に努めてきた。
 - 青少年団体の利用促進を図り、「社会参加」の意識の涵養をめざすように努めた。
 - 雨天時にできる活動や余暇にできる種目など、新規の活動種目を考案し、機材教具を整備し試みを行い、新たな活動種目の開発に努めた。
- ② 学校教育団体の研修の充実
 - 学校の主体的な計画運営がなされるように、連携を密にし、連絡の機会を多く、かつ、具体的事項にわたって協議するように努めた。
 - 教育課程の実施としての集団宿泊で、学校教育目標をいかに具現化するかについて指導援助するように努めてきた。
- ③ 各種団体の利用拡大
 - 「生涯学習体系」の中で、宿泊教育施設の担う役割を踏まえ、広く各年齢層にわたる社会教育団体、企業、一般人等の利用促進を図るとともに、「学習の館」としての機能充実に努めてきた。
 - 市町村教育委員会や公民館、関係行政機関、諸団体等と連携を密にし、当施設の事業や機能の理解を深めるよう紹介に努めてきた。
 - 利用団体の要請や希望を、アンケート調査により集約し、それに対処する方策を練り、工夫改善を行ってきた。

(2) 主催事業の効果的運営

- ① 主催事業を精選し、内容・方法を工夫改善し、重点的な運営を図った。
- ② 「集団宿泊指導担当者研修会」（年3回）では、指導担当者となる研修生だけあって、真剣に生活体験し、種目別活動では自らの足で踏査し資質向上に努めてきた。団体相互間の活動種目の調整や、研修の効果的な運用などを情報交換し、毎回好評であった。
- ③ 「親と子・海浜のつどい」は、恒例事業ではあるが、過年度の反省実績を踏まえて、創意工夫を凝らした。あ